

常設展「うちの中の岡本太郎」

2020年10月15日(木)～2021年1月24日(日)



《夢の鳥》1977年 陶磁

岡本太郎の制作活動の根底には、「芸術は大衆のもの」という考えがありました。芸術は暮らしの中でこそ活かさなければならないと考えていた太郎は、岡本芸術の価値を下げることになる周囲が反対するのを押し切ってウイスキーのオマケとして《顔のグラス》を制作したり、ネクタイやトランプなど日頃から人々の生活に生かされるものをデザインしたりなど、多くのインダストリアル作品を制作しました。

太郎が生前に制作した日用品やグッズのみならず、彼の没後にも引き続き多くの岡本太郎グッズが生み出されています。作品のみならず本人もそのモチーフとなるなど、これほど多くのグッズが制作されている作家は他に類を見ません。私たちは今でも身近に岡本太郎とその芸術性に触れることができます。

自粛や在宅を求められる今、暮らしの中で楽しめるアートをコンセプトにした展示として、太郎が生前に手掛けたインダストリアルデザインと、死後に作られたグッズを中心に紹介します。展示を通して、生活の中で生きる太郎の芸術をご覧いただければと思います。

開催概要

- 会場：川崎市岡本太郎美術館 常設展示室
 会期：2020年10月15日(木)～2021年1月24日(日)
 主催：川崎市岡本太郎美術館
 開館時間：9:30～17:00(入館は16:30まで)
 休館日：月曜日(11月23日、1月11日を除く)、11月24日(火)、
 12月29日(火)～1月3日(日)、1月12日(火)
 観覧料：2020年10月15日(木)～10月23日(金) 常設展のみ開催
 一般 500(400)円、高・大学生・65歳以上 300(240)円

2020年10月24日(土)～2021年1月24日(日) 企画展とのセット料金
 一般 1,000(800)円、高・大学生・65歳以上 800(640)円

- ※中学生以下は無料
 ※()内は20名以上の団体料金

PRESS RELEASE



川崎市岡本太郎美術館

みどころ

- 太郎の作品の中から家具や日用品、グッズなど、暮らしの中で楽しめるものを中心に紹介。
- グッズをテーマに盛り込んだ常設展は初！
太郎の作品から派生した多彩なグッズをお楽しみいただけます。
- 常設展は写真撮影可能！（フラッシュ、三脚の使用は不可）

主な出品作品

油彩 《森の掟》《海辺》《犬》など

彫刻 《誇り》《河童像》など

インダストリアルデザイン 《まどろみ》《顔のグラス》《水差し男爵》など

グッズ （太郎作品のフィギュア、太郎デザインのスニーカー、ジャージなど）



《まどろみ》1967年 FRP、布、金属



《森の掟》1950年 キャンバス、油彩



近鉄バファローズ キャップ

関連イベント

（仮）「蘇る VR 太陽の塔 ver. 3」

《太陽の塔》の内部、外観をVRで観覧しよう！

当館では3回目となる本イベント。

前回よりさらにパワーアップし、《太陽の塔》の地下空間もご覧いただくことができます。

日程：2020年11月7日（土）～11月22日（日）毎週土日のみ開催

時間：11:00～16:30

協力：日本工業大学

※感染症拡大状況により、本映像を動画サイトにアップロードしてご覧いただく方法も検討しています。

※その他イベント、イベントの詳細につきましては、当館ホームページで随時お知らせいたします。

川崎市岡本太郎美術館ホームページ <http://www.taromuseum.jp>



お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当：佐藤（明） 広報担当：森近（pr@taromuseum.jp）

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区柵形7-1-5 生田緑地内

TEL：044-900-9898 /FAX：044-900-9966